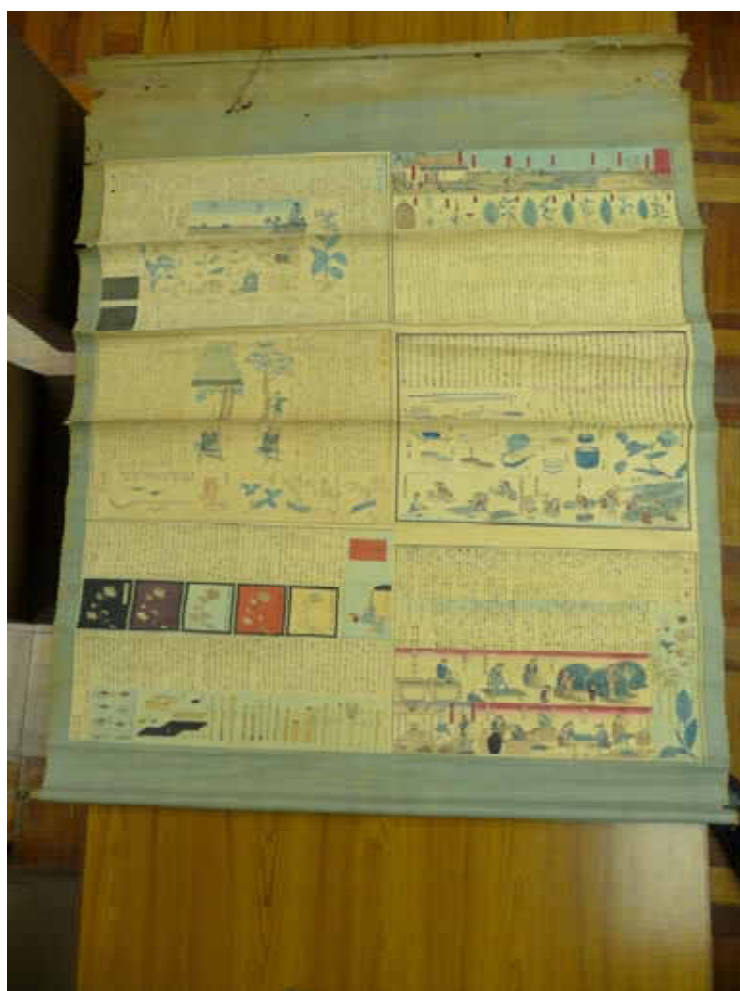




新資料発見

大阪農学校のルーツに迫る



去る1月、社会科教室の整備を行っている際に掛け図（地図）と共に貴重な資料が保管されていることがわかった。

これは、明治5年から同9年までに、旧文部省（現文部科学省）が農業教育のために作成した「教草（おしえぐさ）」を表装して掛け軸にした物である。浮世絵あるいは瓦版の手法で作られており、文字も絵も版画で、さらに多色刷りとなっている。作成は文部省。大きさは縦が約150cm横約120cmの掛け軸で、6枚の「教草」が掛け軸風に表装されている。

しかも、所々に「博物局」「博覧会事務局」の角印が押されており、明治時代に殖産興業のため各地で開催された「内国勸業博覧会」に出展された物であることが分かる。

「教草」に記載された年紀が、「明治5年」「明治9年」となっていることから、1877(明治10)年または1881(明治14)年に東京上野(現在のの上野公園)で開催された内国勸業博覧会で展示されたものが、その後、大阪農学校に教育用備品として給付された(当時であれば下賜された)品物であることがあきらかとなってきた。給付時期は、大阪農学校の創立された1888(明治21)年、あるいは1890(明治23)年農学校が堺の車之町から生野区勝山(現在の生野区民センター)に移転した時期であろうと推測される。

掛け軸の外側には、「備品第一号」と墨書されており、おそらくは大阪農学校の備品第一号ということであろうと考えられる。

内容は、茶・たばこ・藍・漆の栽培方法および蒔絵製品の製造工程をわかりやすく図解したものである。絵は江戸狩野の狩野良信(江戸狩野表絵師の末裔で文部省技官)である。

「教草」本体は、和紙に版画印刷されているため、残存状況はまずまずだが、表装部分が劣化(酸化)してぼろぼろになっており、触れると崩れそうな状態である。

この史料は、農学校の備品であり、大阪府立大学に所蔵されてもおかしくないものであるが、近郊農業のメッカである貝塚に農業科ができ、府立農業高校が廃校となると、おそらくは本校2代目校長である橋本峯三氏を含む旧農学校職員が府立農業高校から府立貝塚高校に備品移管したものであろう。

本校農業科と大阪(府立)農学校の連続性を示す史料として、非常に貴重な遺産であるため、この保存について、同窓会が主導的に保存作業をすることになった。

校歌刻字 応接室横に設置

- 記念式典に展示 学校の顔に -



去る1月17日、生徒作品の貝塚高等学校校歌刻字が応接室横に据え付けられた。

この刻字は、記念式典の折、コスモシアターホワイエに展示されたもので、その後設置場所を検討し、玄関そばの応接室横壁に設置されたもの。

追加事業を決定

- 第4回実行委員会 -

去る2月14日、第4回実行委員会が行われ、70周年記念事業について、追加事業を行うことを決定しました。

事業当初予算の中間決算では、ほぼ予算通りの事業が執行済みとなっていますが、実は11月20日の記念式典で、寄付金11件、併せて575,000円のご寄付を、同窓生およびPTA会員から寄せられました。

今回の記念事業は、質素儉約を旨にして、基本的に同窓会・PTAからの拠出金のみでまかない、寄付を募らないのが原則で、積極的に寄付をお願いしていませんでしたが、お祝いの気持ちを込めてご寄付を持参いただきました。本当にありがとうございました。

この寄付金について、2月14日実行委員会でその使い道が議論され、追加事業を行うこととしました。

(その1) 楽器購入 吹奏楽BB チューバ (54万円相当)



ヤマハ YBB-321 (定価¥540,750)

式典で使用したチューバが他校の借り物で、この1月に返却、現在小さくて音程の悪いチューバしか無く、これまでの演奏を保障できない状態。入学式や卒業式など学校行事でも積極的に盛り上げている吹奏楽部の高額な基本楽器を購入することになりました。なお、実際の購入金額はもう少し安く、35万円程度になる模様です。

(その2) ウォータークーラー購入 (1台10万円相当)

現在運動系クラブが水分補給用に活用しているウォータークーラーの調子が悪く、冷えなかったり、水量が少なかったりするため、出来る限りの台数を導入することになりました。

(その3) 貝塚高校スタッフベスト (1着2,500円程度)

上記2つの事業を行った上の残金で貝塚高校のスタッフベスト (1着 2,500円相当) を購入することとしています。また、端数は生徒会に寄付することとしました。

貝高歴史ばなし (こぼれ話)

60周年記念事業

- 情報化・電子化の事業を行う -

今から約10年前の貝塚高校60周年では、記念式典を行っていないが、記念事業は行っている。具体的な資料が残っていなかったが、当時教頭であった脇田孝豪氏(現在伯太高等学校校長)よりお話を伺ったところ、以下のことがはっきりした。校内でも事実誤認があるので、後世のために書き残す。

脇田氏の話によると、今から10年前、教育の情報機器化が著しく進む、との観点から、PTA・同窓会の記念事業として、職員室の北側に業務用のOAテーブルを配置、10台近いコンピュータを設置していただいたそうだ。

この情報機器の近代化に多くの予算がかかるため、式典とパーティは、検討した結果行わなかった。整備された機械の中に画像処理に強いマッキントッシュiマックも導入され、この機械で60周年記念CD-ROMが作られた。60周年記念CD-ROMは、「情報化」「IT化」を先取りすることで、当時としては最新鋭の技術を駆使したものだ。

しかし、周年式典がないのも寂しいということで、生徒の芸術観賞行事として生徒会主催のコンサートを行う予定だったが、オファーをかけたバンドとの打ち合わせや調整がうまくいかず、これは実施されなかった。

当時最新の技術で作られた60周年CDであるが、機械がないと見るができなかったため、コンピュータの普及がそれほどでもなかった当時、見る人は少なかった。コンピュータが普及した頃には、作動環境がウィンドウズ98で設定されていたため、メニューが使いえなくなった。

新たな技術はすぐに陳腐化するというのが実感である。このため、70周年では紙ベースの記念誌を発行することとなったのである。



2001年当時の図書室。学校情報ネットワークの機械が見える